

特集◎夢を語ろう

須山 美美子 さん
(83歳・明科)

一生、自分の足で歩くこと。それは私にとって叶えたい夢ではなく、叶えたい事です。若い頃はスキーや登山に親しみましたが、ケガもあって50代になってストレッチを楽しんでいます。スポーツ指導員としても活動しており、皆さんと一緒に筋力をつけ、地域の健康づくりに貢献したいです。



高木 光 さん
(35歳・豊科)

3月には、新しい家族が増えます。夫婦ふたりとも山が大好きで、結婚する以前から登山によく出かけていました。いずれ、成長した子どもたちと一緒に家族で山に登ることが夢です。



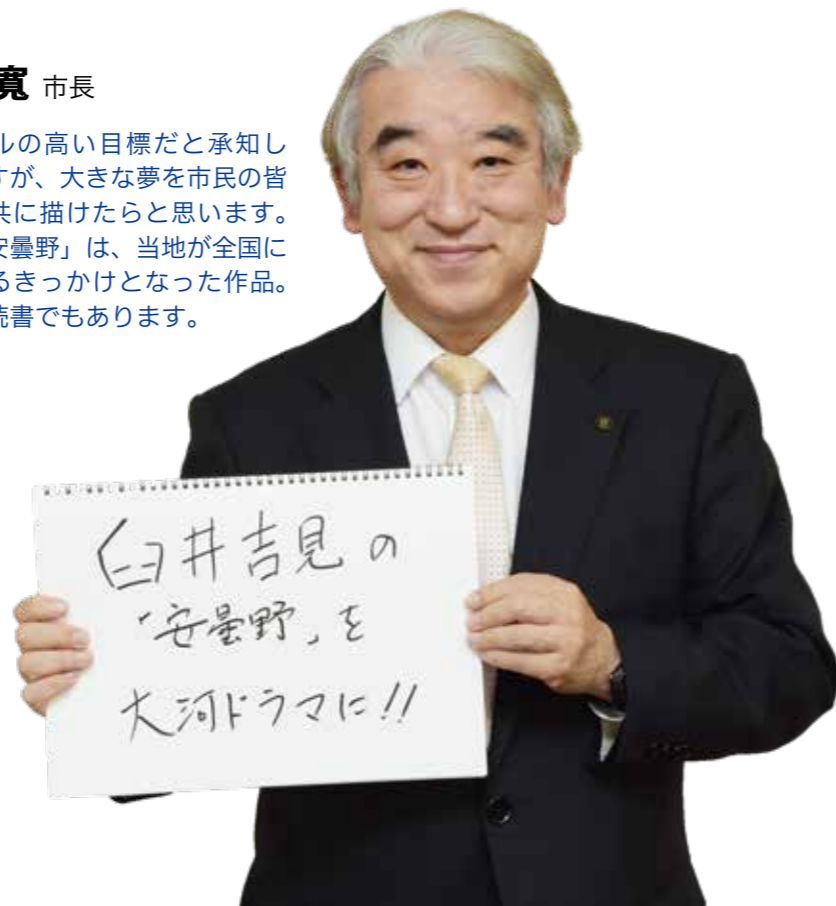
花村 秀志 さん
(11歳・堀金)

小学3年生から2歳上の兄の影響で野球を始めました。昨年からピッチャーに挑戦していますが、センターを守っています。ヒットを打った時が最高に楽しい瞬間。将来はプロ野球選手になりたいです。



太田 寛 市長

ハードルの高い目標だと承知していますが、大きな夢を市民の皆さんと共に描けたらと思います。小説「安曇野」は、当地が全国に知られるきっかけとなった作品。私の愛読書でもあります。



新たな一年の幕開け。さまざまな社会不安が続く中で、それぞれの「夢」を語ることは、希望の道しるべとなるはずですが、**太田市長、そして、今年の干支である寅年の市民の皆さんに、新たな時代に描く「夢」を聞きました。**

夢を語ろう。

新春企画

上嶋みどり さん
(47歳・三郷)

健康で過ごせることは、本当に幸せなことだと気付いた昨年。毎日必死で、楽しむことを忘れていたように感じました。家族で飲食店を経営していて、コロナの不安もまだまだありますが、当たり前ではない毎日を大切に、楽しいことに目を向けて過ごせたら幸せだなと思っています。



横山一浩 さん
(59歳・穂高)

学校を卒業して最初に就職したのは橋梁会社でした。日本各地の橋に関わりましたが、見に行けていません。人生の節目の歳となり、妻と一緒に若かり頃の仕事を顧みる旅に出かけたいです。がむしゃらに日本中を駆け回ったあの頃を思い出したい！



太田寛市長◎年頭のごあいさつ

希望と夢を語れる一年に

謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。市民の皆さまには市政運営に関わるご支援、ご協力に改めて感謝申し上げます。

決意を新たに

昨年は新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、安曇野でも特別警報が発出されるなど厳戒態勢となりました。感染拡大によりご苦労されている皆さまにお見舞い申し上げますとともに、現在も対応にご尽力いただいている皆さまに心から敬意と感謝を申し上げます。

私は、昨年10月の就任以来、安全・安心の確保を最優先に、観光・飲食業への支援、福祉医療を高校卒業までに拡大する計画など、暮らしを守る取り組みを進めてまいりました。市民の皆さまの命と生活を守ることを、最大の使命であると決意を新たにしております。皆さまにおかれては、オミクロン株による感染の動向等も踏まえ、基本的な感染対策の徹底をお願いします。また、誰しもがストレスで押しつぶされかねない状況といえますが、お互いを思いやり、支え合う心豊かな地域を共に築いてまいりましょう。

連携と賑わいを

そして、本年は穂高神社「式年遷宮」が開かれる年でもあります。折しも同時期に、善光寺御開帳、諏訪大社御柱祭も行われ、多くの皆さまが長野県を訪れます。

また、スポーツ関連では、総合体育館の本格的な稼働、マウンテンバイクコースの新設があります。そして、信州安曇野ハーフマラソンも3年ぶりの開催を目指しています。

関係団体と連携を図り、必要な感染症対策を講じた上で、地域の賑わいを取り戻したいと考えております。

夢は力に

私は、現在のように社会不安が長く引く状況で、地域が大きな夢を語り、希望を持って未来に歩みだすことが必要だと感じています。

私自身も、安曇野ナンバーの創設、大河ドラマの誘致といった大きな夢を語らせていただいています。本年は、ぜひ皆さまとともに夢の第一歩を進め、希望を育む年にしたいと思います。

結びに、この一年が皆さまにとりまして、健やかで心豊かな年になりますよう、心からお祈り申し上げます。